

2019 年度「カザネシュティ村子どもデイケアセンター」に対する支援(報告)

2019/09/27 柴崎パメラ

1. 支援決定通知

柴崎はこの夏季休暇を利用しモルドバを訪問したところ、2019年8月5日、キシナウ市内のホテルにて、センターを運営する「日本モルドバ文化文明協会」の協会代表であるライサ・ブラドツァーナ女史にお会いし、モルドバジャパンを代表し支援決定通知書をお渡ししてきました。ライサ女史からは、感謝の辞が述べられるとともに、センターの2018年度活動および収支報告書とともに、モルドバジャパンへの支援要請書などが提出されました。後日、モルドバジャパン事務局より先の支援決定通知書に基づき、3,315.93USDの支援が送付されました。



2. 「カザネシュティ村子どもデイケアセンター」訪問

2019年8月25日、大学のプログラムでモルドバを訪問中の学習院女子大学の学生さんたちと、カザネシュティにあるデイケアセンターを訪問してきました。

センターにバスが到着すると、まずは玄関で子供たちがパンとお花を持ってお出迎え。



その後、教室の中で子供たちがダンスや歌を披露してくれました。可愛い振り付けと歌声に、学生さんたちからは「可愛い！」の声が鳴りやみませんでした。夏休み中にもかかわらず、みんなで集まって頑張って準備を進めてくれたのだと思います。素晴らしいプレゼントでした。

さて、今度は学習院女子大学の生徒さんの番です。まずは練習してきたルーマニア語で自己紹介と日本文化の紹介をしてくれました。慣れない言語で話すのに学生さんたちも必死でしたが、それを子供たちも真剣に聞き取ろうとしてくれていました。



お互いに少し打ち解けてきたところで、センターの子供たちは普段勉強している日本語を披露してくれました。

元気に手を挙げて 50 音や有名な俳句を発表してくれる子供たち。先生に当ててほしくて一生懸命にアピールする子供たちの姿はとても微笑ましく、1 人で 1 から 100 までを日本語で数えてくれた子の熱心さには感嘆の声が漏れました。

また、「お名前は何ですか？出身はどこですか？」などの質問を通して積極的に学習院女子の皆さんとコミュニケーションを取ろうとしてくれました。



日本語で自分の名前を書いている様子↑



その後、お昼休憩を挟みました。食堂で自分たちの食事や飲み物を自分たちで配膳する姿は日本の小学校の給食のようでもありました。また、学習院女子の皆さんも、モルドバの伝統的な料理がお口に合ったようで、「研修で食べた料理の中で一番美味しい！（笑）」と言いながら食べてくれました。

食事のあとは再び子供たちと遊びます。一緒に折り紙をしたり、糸電話を作ったり、学習院女子の皆さんが子供たちの浴衣や甚平の着付けをしてくれたりと、日本文化盛りだくさんの内容でした。

サッカーが趣味の私は、サッカーボールをプレゼントで持ってきて、グラウンドで子供たちとサッカーをしました。



センターを後にするギリギリまで一緒に遊んだりダンスしたりして過ごしました。

帰る頃になると「一緒に写真を撮ろう！」と誘ってくれたりハグをしてくれたりずっと手をつないでいた子もいたのが印象的でした。

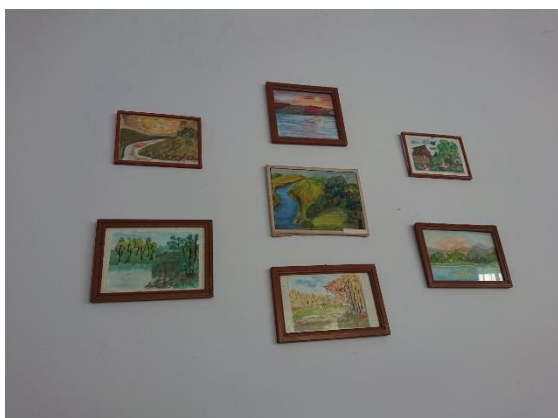


3.感想

言葉が通じなくても、ほんの5, 6時間の滞在でも、ここまで心の通った交流が出来たことが今回の訪問の一番の収穫になったと思います。

また、文化や世代を超えた交流がセンターの子供たちに与える影響は計り知れないものです。世界には自分たちと違う文化で、異なる言語を使って生活をしている人たちがいるということ、自分たちと見た目の違う人がいるということ、簡単なことのようにですが、こうしたことを幼いうちから経験として知っておくことは彼らにとって大きな利益となるのではないかと感じています。

将来彼らの中からモルドバと日本やそれ以外の国々をつなぐような人材が出てきてくれること、そして次回の訪問でさらに成長したみんなに再会できることを心から願っています。



最後になりましたが、私どもモルドバジャパンがこのような意義ある支援活動を行うことができるのも、モルドバジャパン会員はじめ多くの関係者皆様のご協力のお蔭であり、この機会に改めてお礼申し上げます。

(以上)